令和５年度
研修実施報告書
(簡易版)

国立保健医療科学院
専門課程Ⅲ
地域保健臨床研修専攻科

ご挨拶

国立保健医療科学院専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科は、2 年目研修医を対象として、幅広い公衆衛生の知識と技術を身につけることを目的として発足した研修プログラムです。平成 17 年度の試行を経て平成 18 年度から開始、平成 20 年度から専門課程の中に、「地域保健臨床研修専攻科」として正式に位置づけられました。平成 22 年度までは 3 か月コースでしたが、平成 23 年度以降は毎年 10～11 月の 2 か月の研修を行ってきました。現在、26 の病院と連携し、研修プログラムを実施しております。

令和5年度は、全国の 6 病院から 10 人の研修医を迎え入れ、10 月 1 日から 11 月 30 日まで研修を実施いたしました。院内対面研修、現地研修、オンライン研修を組み合わせた、計 40 テーマの院内での講義・演習・セミナーのほか、厚生労働省、国立医薬品食品衛生研究所、国立感染症研究所、千葉県庁等への訪問・研修の機会を得られました。また、本研修の特徴の一つである海外研修は、今年度から新型コロナウイルス感染症拡大以前のスタイルに戻りました。4年ぶりにジュネーブでの研修を実施、WHO 本部、GAVI、ジュネーブ国際機関日本代表部での、施策やキャリアパスに関する講義を受けられました。また、昨年より再開したフィリピン研修では、フィリピン大学のご協力のもと、マニラ周辺の保健衛生施設での研修や、WHO 西太平洋地域事務局での講義を受けることができました。本研修にご協力いただいた多くの皆様のお陰様で、10 名全員が無事に研修を修了しました。ご多忙のところ講義を行ってくださった先生方、研修生の受け入れにご尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 18 年の正式発足以降の修了生は 163 人に達しました。卒業生が当専攻科の講師で来られたり、研修先で卒業生にお世話になったりする機会も徐々に増えております。公衆衛生医師分野や公衆衛生医師の確保の重要性は、昨今の新型コロナウイルス感染症に係る健康危機管理対応でも、明らかになっております。今後の更なる研修プログラムの充実と発展に向けて、ご指導、ご鞭撻を賜れますと幸甚です。

令和 5 年 12 月

地域保健臨床研修専攻科　研修担当一同

専攻科責任者　公衆衛生政策研究部　町田　宗仁
専攻科担当者　公衆衛生政策研究部　大澤　絵里
生活環境研究部　島﨑　　大
生活環境研究部　金　　勲
医療・福祉サービス研究部　山口　佳小里
健康危機管理研究部　竹田　飛鳥
保健医療経済評価研究センター　此村　恵子
保健医療経済評価研究センター　鈴木　裕太

令和5年度研修のねらい

研修の目的は、「将来、保健所勤務等、公衆衛生分野のキャリアを目指す医師を育成すること」である。そのため、今後研修生が公衆衛生分野での仕事を志すにあたり、第一に、様々なレベル（グローバル、リージョナル、国、地方自治体）の公衆衛生活動を見渡せる機会となること、第二に、公衆衛生実務にどのような職種が関係し、多数の専門職種が働く中で、医師が公衆衛生に関わる意義と求められる役割を知る契機となるような研修内容を、それぞれ意識した。目的を達成することで、研修生が今後医師として公衆衛生キャリアパスを形成する一助となる研修となることを担当者一同目指した。なお研修生名簿、研修プログラムは、それぞれ添付資料 1、2 のとおりである。

研修概要

（添付資料1　省略）

院内講義・演習・セミナー（添付資料 2）

院内では、39 名（院内 23 名、院外 16 名）より、40 テーマの講義・演習を実施した。講義は概ね高い評価が得られたが、対話・演習形式の講義、実務が見えるような講義や、キャリアパスについても触れられていた講義について、人気を集める傾向にあった。グループワークは、将来の施策に向けた興味深い提言も飛び出すなど活発な議論が交わされた。

院外研修（国内）

- 厚生労働省

中央省庁における厚生労働行政の実務を体験するため、11 月 6 日から 10 日にかけて、厚生労働省で 5 日間の実習の機会を得た。研修生は、配属課の医系技官を中心とした職員の指導のもと、5 日間インターンとして業務を体験した。

研修生からは、「現場を体験することで、医系技官の役割が見えてきた」、「多忙な中でも要点を押さえて議論を進める能力の必要性を体感した」、「制度を作る側の立場を知ることができ大変興味深かった」「外交のリアルな交渉の場に触れることができた」といった感想が挙げられていた。

- 千葉県庁

地方自治体の衛生行政にかかわる医師の役割を知るため、10 月 27 日に千葉県習志野保健所（習志野健康福祉センター）と千葉県庁を訪問した。習志野保健所では保健所業務全般の概況説明を受けた。その後の県庁では、千葉県が担う医療政策、地域医療構想、医療計画や社会医学系のキャリアパスの講義の後、医療計画に関する「ロジックモデル」を用いた演習を行った。

「ロジックモデルのグループワークを通して実際の政策作成の過程を疑似体験することができた」「県庁内視察は初めて見学する機会だったのでその場の雰囲気を知ることができた」などの感想が、研修生からは寄せられた。

➢ 朝霞浄水場

10 月 31 日、科学院での安全な水道水の供給に関する講義のあと、東京都水道局の朝霞浄水場を訪問した。浄水場担当者による浄水処理の基本、東京都における水資源の確保、非常時のバックアップ体制などに関する説明、および凝集沈殿やオゾン処理のデモンストレーションのあとで、浄水処理施設を視察した。

研修生からは、「安全な水の確保のためにさまざまな努力がなされていることを知り、興味深かったです。」、「講義や実験、実際の試飲などバラエティーに富む内容で大変勉強になりました。」、「実際に水が処理されていく段階を順を追って見ることができてとても理解しやすかったです。」、「実際に初めて浄水場の様子を見学し、水の確保から世界最高峰のクオリティーの水ができるまでの工程が良く理解できました。」などの感想が聞かれた。

➢ 国立医薬品食品衛生研究所 （添付資料 3）

10 月 24 日、国立医薬品食品衛生研究所を訪問、所の概要、市販後安全対策に関するレギュラトリーサイエンス研究、医薬品の品質保証、ナビゲーション医療技術、バイオ医薬品の品質評価、再生医療製品の実用化に係る課題、医薬品安全性情報の収集に関する講義の聴講と、所内見学を行った。研修生からは、「レギュラトリーサイエンスの実践という国立医薬品衛生研究所の使命について理解が深まりました」、「医薬品が開発から流通までどのようなプロセスを経て我々のもとに届けられているのか、とても勉強になりました」、「AI など筆頭としたデジタル技術の活用が今後医療の現場で反映されていく未来が見えました」、「低分子医薬品とバイオ医薬品の製剤上の特

性の差異について改めて認識しました」、「再生医療は近年新たに実用化されつつある技術であり、その評価方法も確立するのが難しいことが分かりました」、「現代は情報が山のように溢れている中で、医薬品の安全性に関する信憑性の高い情報収集と適切な発信は非常に大切だと感じました」などの感想が寄せられた。

➢ 国立感染症研究所戸山庁舎、ハンセン病研究センター （添付資料 4）

11 月 14 日、15 日は国立感染症研究所戸山庁舎、16 日は国立感染症研究所ハンセン病研究センターを訪問した。戸山庁舎では、研究所の概要に始まり、感染症危機管理、FETP の活動、感染症の病理学、動物由来感染症、昆虫媒介感染症などについての講義を受け、感染症危機管理センターに新たに設置された緊急時対応センター（EOC）の見学を行った。ハンセン病研究センターでは、薬剤耐性菌対策、抗酸菌感染症の現状などについての講義を受け、国立ハンセン病資料館を見学した。

研修生からは「FETP について初めて詳細な活動内容や概念を学ぶことができ大変有意義だった」、「COVID-19 下で、行政がどのように動き、そしてこれからの医療を担う私たちがどのような視点で健康の危機管理を行うべきか、考えさせられました」、「未知のリスクをどこまでも想定しつつ、現実味のある範囲内で対策に落とし込む作業は、ある程度の知識と経験がある人を軸に次世代に確実に受け継ぐべきものだと感じた」、「コロナ以前のパンデミック対策としてどのようなものがあったのか、またコロナを通してどのような課題が見えてきたのか学ぶことができて面白かった」、「今回の COVID-19 の経験を踏まえて、想像を超える事態に対応するシステム作り、システム整備の枠組みなどを整える重要性を感じました」、「感染症危機対応は各国が自国の法と文化に適応したベストプラクティスを行なっていく必要があると思いました」などの感想を持った。また、ハンセン病資料館に関しては、「ハンセン病の歴史に関して当事者の方々の声や、実際に使われていた道具、建物の再現などを通してより深く学ぶことができました」、「臨床医として働く今だからこそ、病気の実態が分かってくる経緯や治療法の変遷についても思うことが沢山ありました」などの感想が寄せられた。

ジュネーブ研修（添付資料 5）

11 月 16 日から 19 日にかけて、スイスのジュネーブにおいて、WHO 本部、GAVI（Global Alliance for Vaccines and Immunization）、グローバルファンド、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部を訪問した。WHO では、緊急時オペレーションセンターの見学や、ワクチン、AMR、精神保健、高齢化などの講義を受けた後、日本人職員によるキャリアセッションも臨時で設けられた。GAVI では世界的なワクチン戦略について、グローバルファンドでは、エイズ、結核、マラリアに対して集中的に行っている感染症対策について、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部では、国際保健外交や日本人の海外キャリアについて、それぞれお話を聞くことができた。

「広く網羅的にさまざまなご講義をセッティングしていただき、とても勉強になりました」「国際機関で働く方々のキャリアを伺う機会が多くあり、自分と照らし合わせて将来進みたい道を以前より明確にすること

ができたと思います。」「濃密な講義の数々と多彩なキャリアセッションを通じて、公衆衛生について知見が深まるとともに将来について視野が広がり、自分の中で MPH を取得するキャリアがよりクリアに見えてきました。」「WHO の特技であり存在意義である advocacy や education に対するモチベーションの高さを肌で感じることが出来たのは良かったです。」「実際に WHO やその他の国際機関などを訪問し、その場の空気を感じられたことは非常によい経験だったと思います。」「実際に WHO、Gavi、Global Fund のなど様々な施設でのレクチャーを受け、公衆衛生の各方面に対して各組織がどのように対応し対策をしているのか具体的に学び、現段階での達成状況や今後の課題に触れられたことも大きな経験となりました。」といった感想が寄せられた。

フィリピン研修（添付資料 6）

11 月 20 日から 24 日にかけて、フィリピン共和国のマニラ周辺における保健衛生施設での研修を実施した。地方自治体に設置されているヘルスセンター、また町内会単位に近いバランガイに設置されているバランガイヘルスセンター、三次医療施設であるフィリピン総合病院、熱帯医学研究所の見学や、フィリピン大学公衆衛生大学院においては、フィリピンにおいて感染者の多い疾患である結核・狂犬病や、熱帯地域に特有な感染症に関する講義を受講した。また、WHO 西太平洋地域事務局（WPRO）におけるグローバルヘルスに関する講義を受ける機会があった。

研修生からは、「日本では見ることのない感染症やフィリピンの保健医療体制について学ぶこともでき、大変勉強になった。」、「特にフィールドワークは、現地に訪問しないと分からない地域保健の現状を学ぶことができ良かった。」、「WPRO が何を重要視し、何に取り組んでいるのかを知ることができた。」などの感想が寄せられた。

個別課題演習・成果発表会（添付資料 7）

講義や実習を通じて、ある程度、公衆衛生分野に対する視野が広がった研修の半ばで、研修生が個々に関心のある公衆衛生のテーマを選び、専攻科担当の助言を得つつ、約 4 週間の調査研究を行った。発表会では各研修生がプレゼンテーション（10 分）と、質疑応答（10 分）を行った。テーマは、

①Zero-dose children の現状、課題、取り組み～国内認知度向上に向けた提案～

②Vaccine Hesitancy の歴史と現状、小児科医としての今後の取り組み

③昨今の医薬品の供給不安について～背景と対策および臨床医に求められる対応～

④産業保健の視点からみた医師の働き方改革

⑤孤独な高齢者～社会ができること～

⑥外国人労働者の保健医療

⑦糖尿病未治療・治療中断患者の現状、アプローチ

⑧日本の医療費削減の方法を探る

⑨無痛分娩 国内普及と低中所得国への応用

⑩一億総健康社会～マイナンバー保険証×母子手帳～

と多岐にわたるテーマに取り組んだ。研修生全員がテーマに対する疑問や課題、興味を端緒として現状を調査し、問題点の抽出と改善策の提案に至るプロセスを踏んだ明解な発表となり、質疑応答におけるディスカッションも活発であった。

テーマの選定から、一つのテーマを掘り下げる視点、プレゼンテーションのスタイルは、研修生 10 人の個性が存分に発揮されていた。海外事例の論文・資料検索、統計データの解釈など情報収集・解析能力も長けており、研修生の将来の活躍が期待される。成果発表会は 2 か月間の研修によって、視野が広がったという成長を感じさせる充実した内容であった。

研修総括（添付資料 8）

研修後のアンケートによれば、研修の満足度については、平均で 5 点満点中 5 点の評価を得た。また、後輩に研修を勧めたいか、という問いに対しては、全員が勧めたいと回答し、以下のようなコメントが寄せられた。

- 公衆衛生分野に関心がある研修医にとって、これほど貴重な学びの機会はないと思うのでぜひ勧めたい。
- 自分自身がこのコースを受講し、将来の可能性やキャリアパスについて深く考えさせられたのでぜひお勧めしたい。また、同じ分野に興味を持つ同期に出会えたことも今後の財産になると思った。
- 公衆衛生に関わるあらゆる分野のエキスパートのご講義や実地研修をこれだけの短期間で受けることができる研修はとても貴重である。
- 2 ヶ月という長期間に渡って、公衆衛生を広く学ぶことができるのはこのコースだけだと思う（SPH に進学しても同じクオリティーで学ぶ機会は存在しないのでは）。それを 3 年目以降の時間を浪費せずに初期研修の一環として受講できるのは極めて有意義な機会だったと思うから。
- 一度初期研修が始まると、公衆衛生のマインドを忘れてしまうことも多々あるが、ここで一度じっくりキャリアを考えつつ、公衆衛生を学べる機会は貴重だと思うから。

- 公衆衛生に関わる人々とのつながりを作ることができるし、これだけ広範囲のことを自分で学ぶのは困難だから。

- 幅広い公衆衛生の分野を網羅的に学ぶことができ、医師として公衆衛生にどのような関わり方ができるのかを考えられると思う。一緒に参加している研修生や講義をしてくださる先生方とネットワークができるという点もとても大きな魅力に感じた。将来公衆衛生分野で働くと決めている人にとっても、公衆衛生がどのようなものかあまりわからないけれど関心はあるという人にとっても非常に有意義な経験ができると思う。

- これほどまでに公衆衛生を多角的に学習できるプログラムはなく、さらにそれを初期研修中に経験できることは大変貴重な経験になると思うから。

- 2 カ月でここまで様々な経験をできるコースは他にないと思う。初期研修はこのコースを必修にすべきかもしれない。

- 公衆衛生の全体像を広く浅く掴めるだけでなく、様々な実地研修を経て、どこで、どのような人が、どのような課題に向き合っているのかについて、リアルを学ぶことが出来る研修だと感じた。2 ヶ月間という期間設定もメリハリがあり非常に良い集中力を保てる期間だと感じた。しかし、メインが座学ということもあり、一人一人の学習姿勢で得られるものが大きく変わってしまうと思う。ある一定のモチベーションのある人たちが集まるという条件の下で、最高の研修になると思う。

研修生に、「後輩にこのコースを勧めるとすれば一言でどのような研修コース、と紹介しますか？キャッチフレーズを提案してください。 」と質問、回答の一部をご紹介する。

- パブリックヘルス・デラックス
- 公衆衛生とは何かを教えてくれるコース
- 公衆衛生の未来を見つけに行こう！
- 公衆衛生ブートキャンプ
- 公衆衛生キャリアの扉を開くコース
- 公衆衛生詰め合わせセット
- 自分の人生のターニングポイントになるコース
- 多角的に公衆衛生について input と output を経験できる研修コース
- 自分が本当にやりたいことを見つけられる研修コース
- Glocal Human Health

院内、海外を含めた院外研修を交えながら実施されたこの 2 か月間は、様々な視点から公衆衛生という世界を見聞してもらうことを目指したプログラムであった。アンケート結果を見る限り、研修の狙いは伝わっていたものと考えられる。また総じて、研修生の積極的な参加や、学びの吸収を、研修担当一同が感じたところである。多角的なものの見方を得るとともに、多様なキャリアプランを思い描けるようになることが、この研修の成果である。

本研修の目的である、「幅広い公衆衛生に関する分野の講義、課題演習、施設見学等現場研修（海外研修を含む）を通じて、将来、保健所勤務等、公衆衛生分野のキャリアを目指す医師を育成すること」に関して、どのくらいの研修生が実際に初期臨床研修後、公衆衛生行政や社会医学系を目指すのか、注視していたが、将来的にキャリアとして新たに検討し始めた者もいて、安堵しているところである。

研修生同士で友好を深め、刺激し合う姿が随所で見られた。今後もこの研修で得たネットワークを更に強化し、拡大し、行政に限らず、様々な社会医学、公衆衛生分野で活躍していくことが強く期待される。

今年も、研修生のプログラムへの積極的な参加と、関係者のご尽力により、濃密な日々を過ごし、事故もなく、無事全員が研修を修了できたことに、改めて感謝申し上げたい。

添付資料 2

令和５年度　国立保健医療科学院　地域保健臨床研修専攻科

スケジュール

※一部調整中のため変更になる場合があります。
※海外在住の講師によるオンライン講義の場合は、時差の都合により講義時間が変則的になることがあります。

月日	曜日	時間	教科内容	講師名
10月2日	月	10:00～11:20	開講式	
			オリエンテーション（遠隔教育）	研修業務課／科目担当者
		11:30～12:30	ice breaking 1	科目担当者
		13:30~15:00	ice breaking 1	科目担当者
		15:10～16:40	ice breaking2	科目担当者
10月3日	火	9:20~10:50	ice breaking3	科目担当者
		11:00~12:30	院長講話	院長　曽根　智史
		13:30~15:00	講義「グローバルヘルスのキャリアパス」	元WHO　錦織　信幸
		15:10~16:40	講義「グローバルヘルスのキャリアパス」	元WHO　錦織　信幸
10月4日	水	9:20~10:50	講義「公衆衛生キャリアの一例」	公衆衛生政策研究部　町田　宗仁
		11:00~12:30	講義「健康政策の公共性」	公衆衛生政策研究部　武村　真治
		13:30~15:00	オリエンテーション（各種課題、海外研修）	科目担当者
		15:10~16:40	講義「健康日本２１」	生涯健康研究部　横山　徹爾
10月5日	木	9:20~10:50	講義「地域におけるリハビリテーション」	医療・福祉サービス研究部　山口佳小里
		11:00~12:30	講義「『健やか親子21』と成育基本法」	疫学・統計研究部　上原　里程
		13:30~15:00	講義「母子保健の現場活動」	公衆衛生政策研究部　大澤　絵里
		15:10~16:40	グループ課題討議等	科目担当者
10月6日	金	9:20~10:50	講義「保健師とは」	生涯健康研究部　佐藤　美樹
		11:00~12:30	グループ課題討議等	科目担当者
		13:30~15:00	講義「たばこ対策研究」	生活環境研究部　稲葉　洋平
		15:10~16:40	院内実験施設見学	生活環境研究部

10月10日	火	9:20~10:50	WHO研修の準備状況確認	科目担当者
		11:00~12:30	講義「JICA海外協力隊の経験から」	健康危機管理研究部　竹田　飛鳥
		13:30~15:00	講義「格差社会」	公衆衛生政策研究部　佐々木　由理
		15:10~16:40	講義「患者安全とチーム医療」	医療・福祉サービス研究部　種田憲一郎
10月11日	水	9:20~10:50	講義「電磁波と健康／リスク」	生活環境研究部　牛山　明
		11:00~12:30	講義「レセプトデータと医療政策」	医療・福祉サービス研究部　赤羽　学
		13:30~15:00	講義「薬事行政とレギュラトリーサイエンス」	大阪大学　山岸　義晃
		15:10~16:40	講義「薬事行政とレギュラトリーサイエンス」	大阪大学　山岸　義晃
10月12日	木	9:20~10:50	講義「健康危機管理」	健康危機管理研究部　冨尾　淳
		11:00~12:30	講義「健康危機管理」	健康危機管理研究部　冨尾　淳
		13:30~15:00	グループ課題討議等	科目担当者
		15:10~16:40	講義「災害医療」	厚生労働省医政局　赤星　昴己
10月13日	金	9:20~10:50	グループ課題討議等	科目担当者
		11:00~12:30	講義「原子爆弾被爆者援護施策について」	長崎県福祉保健部　新田　惇一
		13:30~15:00	ジュネーブ研修最終オリエンテーション	科目担当者

10月16日	月	9:20~10:50	ジュネーブ研修	
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
10月17日	火	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
10月18日	水	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
10月19日	木	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
10月20日	金	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		

10月23日	月	9:20~10:50	研修後半の準備確認	科目担当者
		11:00~12:30	講義「臨床疫学研究」	自治医科大学　山名　隼人
		13:30~15:00	講義「医療経済」	保健医療経済評価研究センター　福田　敬
		15:10~16:40	講義「医療経済」	保健医療経済評価研究センター　福田　敬
10月24日	火	9:30～17:00	国立医薬品食品衛生研究所	
10月25日	水	9:20~10:50	講義「国際保健・UHC・キャリアパス」	東京女子医科大学　坂元　晴香
		11:00~12:30	講義「国際保健・UHC・キャリアパス」	東京女子医科大学　坂元　晴香
		13:30~15:00	講義「歯科口腔保健」	統括研究官　福田　英輝
		15:10~16:40	講義「コロナ治療薬の開発戦略の現場から」	藤田医科大学　土井　洋平
10月26日	木	9:20~10:50	講義「HIV／AIDSコントロールの現場から」	国立国際医療センター　田沼　順子
		11:00~12:30	講義「新型コロナと空調・換気」	生活環境研究部　金　勲
		13:30~15:00	グループ課題討議等	科目担当者
		15:10~16:40	グループ課題討議等	科目担当者
10月27日	金	10:00～16:00	千葉県庁	

月日	曜日	時間	教科内容	講師名
10月30日	月	9:20~10:50	講義「地域精神保健」	千葉大学　吉村　健佑
		11:00~12:30	講義「産業精神保健」	
		13:30~15:00	講義「医療ICT・遠隔医療」	
		15:10~16:40	講義「医療費の適正化と政策決定の実際」	
10月31日	火	9:20~10:50	講義「水と健康」	生活環境研究部　浅見　真理
		11:00~12:30	講義「水と健康」	生活環境研究部　浅見　真理
		14:00～16:00	朝霞浄水場見学	生活環境研究部
				生活環境研究部
11月1日	水	9:20~10:50	グループ課題討議等	科目担当者
		11:00~12:30	講義「水道の健康影響評価」（オンライン）	京都大学　浅田　安廣
		13:30~15:00	講義「メコン川流域の水利用と下痢症リスク評価」	生活環境研究部　三浦　尚之
		15:10~16:40	講義「新生児マススクリーニングと医療経済評価」	保健医療経済評価研究センター　此村　恵子
11月2日	木	9:20~10:50	グループ課題討議等	科目担当者
		11:00~12:30	講義「安全な医療用水の供給と課題（仮）」	生活環境研究部　島﨑　大
		13:30~15:00	講義「わが国の喫煙・受動喫煙対策の変遷」（オンライン）	産業医科大学　大和　浩
		15:10~16:40	厚労省研修オリエンテーション等	科目担当者

11月6日	月	9:20~10:50	厚労省研修	
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月7日	火	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月8日	水	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月9日	木	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月10日	金	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		

11月13日	月	9:20~10:50	厚労省研修報告会（仮）	科目担当者
		11:00~12:30	マニラ研修グループ課題討議等	科目担当者
		13:30~15:00	講義「食品衛生の基本」	生活環境研究部　温泉川　肇彦
		15:10~16:40	講義「食品衛生の基本」	生活環境研究部　温泉川　肇彦
11月14日	火	10:20～15:55	国立感染症研究所（戸山庁舎）	
11月15日	水	10:00～15:00	国立感染症研究所（戸山庁舎）	
11月16日	木	10:00～	国立感染症研究所（ハンセン病研究センター）	
		13:10～	国立ハンセン病資料館見学	
			14:40　現地解散予定	
11月17日	金	9:20~10:50	講義「身体活動・体力と健康」(ｵﾝﾗｲﾝ)	早稲田大学　宮地　元彦
		11:00~12:30	マニラ研修プレゼンテーション	科目担当者
		13:30~15:00	マニラ研修最終オリエンテーション	科目担当者
		15:10~16:40	課題整理	科目担当者

11月20日	月	9:20~10:50	マニラ研修	
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月21日	火	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月22日	水	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		
11月24日	金	9:20~10:50		
		11:00~12:30		
		13:30~15:00		
		15:10~16:40		

11月27日	月	9:20~10:50	課題整理	科目担当者
		11:00~12:30	講義「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾍﾙｽを志す人のために」（ｵﾝﾗｲﾝ）	GHITファンド　國井　修
		13:30~15:00	地域保健活動の実践～国際保健から国内地域保健まで	熊本県菊池保健所　劔　陽子
		15:10~16:40	課題整理	科目担当者
11月28日	火	9:20~10:50	調整中	科目担当者
		11:00~12:30	講義「行政医師の可能性」（オンライン）	青森県健康福祉部　永田　翔
		13:30~15:00	課題整理	課題整理
		15:10~16:40	講義「公衆衛生行政を語る」	科学院名誉院長　福島　靖正
11月29日	水	9:20~10:50	フィリピン報告会	
		11:00~12:30	成果発表会	
		13:30~15:00	成果発表会	
		15:10~16:40	成果発表会	
11月30日	木	10:00~10:30	修了式	科目担当者
		10:30~12:00	研修振り返り	

添付資料 3

令和５年度
国立保健医療科学院 院外研修プログラム

日時：令和５年 10 月 24 日（金）９：30～17：00
場所：国立医薬品食品衛生研究所　共用会議室
〒210-9501 神奈川県川崎市川崎区殿町３－25－26
電話 044-270-6600(代)

第１部：09：30～12：15

1. 09:30－10:15　国立医薬品食品衛生研究所の紹介と市販後安全対策に関するレギュラトリーサイエンス研究
【齋藤副所長】

2. 10:25－11:10　医薬品の品質保証とジェネリック医薬品
【薬品部：吉田室長】

3. 11:20－12:15　ナビゲーション医療技術
【医療機器部：植松主任研究官】

＜12:15－13:30　昼食休憩＞

第２部：13：30～17：00

4. 13:30－14:15　バイオ医薬品の品質評価
【生物薬品部：柴田室長】

5. 14:25－15:10　再生医療等製品の実用化のための課題と試験法開発
【再生・細胞医療製品部：安田部長】

6. 15:20－16:05　医薬品安全性情報の収集と提供
【医薬安全科学部：青木主任研究官】

7. 16:15—17:00　所内見学
【齋藤副所長】

添付資料 4

2023年度　国立感染症研究所・医師卒後臨床研修プログラム

2023年11月14日（火）～11月16日（木）
講習時間　1コマ55分（講義45分＋質疑応答10分）
対象者：卒後2年目研修医（10名）

1日目（対面）

月日・場所	時間	内容	担当
11月14日（火） **午前** 国立感染症研究所 戸山庁舎 共用第一会議室	10:20	開講	
	10:20～10:30	事務連絡（10 分）	
	10:30～10:40	開会挨拶（10 分）	国立感染症研究所副所長 俣野　哲朗
	10:40～10:55	国立感染症研究所の概要（15 分）	研究企画調整センター長 竹下　望（戸山）
	10:55～11:00	休憩(5 分間)	
	11:00～11:55	FETP の活動について	実地疫学研究センター長 砂川　富正（戸山・飯田橋）
昼食(65 分)			
11月14日（火） **午後** 国立感染症研究所 戸山庁舎 共用第一会議室	13:00～13:55	感染症危機管理①	感染症危機管理研究ｾﾝﾀｰ長 齋藤　智也（戸山）
	13:55～14:00	休憩(5 分間)	
	14:00～14:55	感染症危機管理② （感染症危機管理研究センター（EOC）執務室見学含む）	感染症危機管理研究ｾﾝﾀｰ長 齋藤　智也（戸山）
	14:55～15:00	休憩(5 分間)	
	15:00～15:55	日本国内の予防接種と制度について	感染症疫学センター 予防接種総括研究官 神谷　元（飯田橋）

2日目（対面）

月日・場所	時間	内容	担当
11月15日（水） **午前** 国立感染症研究所 戸山庁舎 共用第一会議	10:00～10:55	感染症の病理学(実験室見学含む)	感染病理部長 鈴木　忠樹　（戸山）
	10:55～11:00	休憩(5 分間)	
	11:00～11:55	感染症サーベイランス	感染症疫学ｾﾝﾀｰ第四室長 高橋　琢理　（戸山）
昼食(65 分間)			
11月15日（水） **午後** 国立感染症研究所 戸山庁舎 共用第一会議室	13:00～13:55	蚊媒介感染症について	昆虫医科学部主任研究官 佐々木年則（戸山）
	13:55～14:00	休憩(5 分間)	
	14:00～14:55	動物由来感染症について	獣医科学部長 前田　健　（戸山）
	14:55～15:00	事務連絡(5 分間)	

3日目（対面）

月日・場所	時間	内容	担当
11月16日（木） **午前** 国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 講義室	10:00～10:55	薬剤耐性菌について -院内感染症に関連する耐性菌-	薬剤耐性研究センター主任研究官 梶原　俊毅　（ハンセン）
	10:55～11:00	休憩(5 分間)	
	11:00～11:55	抗酸菌感染症の現状について	感染制御部主任研究官 向井　徹　（ハンセン）
	11:55～12:00	事務連絡(5 分間)	
昼食・移動（80 分）			
11月16日（木） **午後** 国立ハンセン病資料館	13:10	集合　国立ハンセン病資料館	
	13:10～14:40	国立ハンセン病資料館見学	
	14:40	現地解散	

添付資料 5

National Institute of Public Health (NIPH), Japan - 10 medical doctors
Accompanied by Munehito Machida, Director, Department of Public Health Policy, NIPH
16-18 October 2023

Monday 16 October (full day)

Venue: M205

09.00 Arrival WHO reception, Avenue Appia 20, Geneva – to be met by Yumi Kisaka and Dorine van der Wal Dorine

09.15 – 09.40 Welcome – Yukiko Nakatani, Assistant Director-General, Access to Medicines and Health Products

09.40 – 10.45 Introduction – Dorine van der Wal, Youth Engagement, Health and Multilateral Partnerships

10.45 – 11.15 Break

11.15 – 12.00 Tobacco control – Dongbo Fu, No Tobacco

12.00 – 14.00 Lunch and visit WHO book/gift shop

14.00 – 14.45 Mental health – Dr Ken Carswell, Mental Health

14.45 – 15.45 Introduction EOC – Ding Feng, Emergency Operations Center
Health security and emergencies – Yutaka Endo, High Impact Events Preparedness
Venue: Emergency Operations Centre

Tuesday 17 October (morning)

Venue: M205

09.15 – 10.00 Food safety/Foodborne diseases – Yuki Minato, Monitoring Nutritional Status & Food Safety Events

10.00 – 10.45 Vaccine hesitancy – Lisa Menning, Essential Programme on Immunization

10.45 – 11.15 Break

11.15 – 12.00 NCD control – Nick Banatvala, Global NCD Platform

14.00－16.00 Lecture by Masafumi Funato(GAVI) and Nobuhiro Koba (Global Fund) at Global Health Campus

Wednesday 18 October (full day)

Venue: M205

09.15 – 10.00 UHC Primary Health Care – Shams Syed, Policy and Partnerships

10.00 – 10.45 AMR – Suzanne Young, Tripartite Joint Secretariat

10.45 – 11.15 Break

11.15 – 12.00 Healthy ageing – Yuka Sumi - Ageing and Health

12.00 – 14.00 Break

14.00 – 14.45 HPV vaccination – Hiroki Akaba, Essential Programme on Immunization

添付資料 6

2023 NIPH Japan
INFECTIOUS DISEASE CONTROL MODULE
November 20-24, 2023

SCHEDULE OF ACTIVITIES			
VENUE	**TIME**	**ACTIVITIES/ TOPICS**	**PERSON/S –IN-CHARGE**
Day 1: Nov. 20, 2023, Monday			
CPH Library Mezzanine	8:30 - 8:40	Opening Remarks	Dean Fernando B. Garcia, Jr.
	8:40 - 8:55	Introduction to the Course	Dr. Maria Margarita M. Lota
	8:55 – 9:10	Photo Opportunity	
	9:10 - 10:10	Neglected Tropical Diseases (Soil Transmitted Helminthiasis, Schistosomiasis) and Filariasis	Dr. Vicente Y. Belizario, Jr.
	10:10 - 10:30	BREAK	
	10:30 - 11:30	Malaria	Dr. Pilarita T. Rivera
	11:30 - 12:30	Dengue and Japanese Encephalitis	Dr. Fresthel Monica M. Climacosa
	12:30 - 13:30	LUNCH BREAK	
	13:30 – 14:30	TB and MDRTB	Dr. Evalyn A. Roxas
	14:30 – 15:30	Measles and Polio	Dr. Sharon Yvette Angelina M. Villanueva
	15:30 – 16:30	Leptospirosis	Dr. Sharon Yvette Angelina M. Villanueva
Day 2: Nov. 21, 2023, Tuesday			
CPH Library Mezzanine	9:00 – 10:00	Rabies	Dr. Sheriah Laine De Paz-SIlava
	10:00 – 11:00	ERID (COVID19, Monkeypox, Nipa)	Dr. Evalyn A. Roxas
	11:00 – 12:00	The Philippine Public Health System; Health and Development	Dr. Susan Yanga – Mabunga or TJ
	12:00 – 13:30	LUNCH BREAK	
PGH	13:30 – 16:30	Visit to Philippine General Hospital	Dr. Evalyn A. Roxas Prof. Marohren Altura Ms. Micaella Dato
Day 3: Nov. 22, 2023, Wednesday			
WHO- WPRO Office		Visit to World Health Organization-Western Pacific Regional Office	Asst. Prof. Azita Racquel G. Lacuna Ms. Micaella Dato
	7:55 – 8:00	Opening	PTC/CSU: Dr. Midori Akimoto
	8:00 – 9:00	Healthier Population * Aging and NCD	DHP: Dr Hiromasa Okayasu *teams meeting
	9:00 – 9:20	Overview of WPRO and its activities	DPM: Dr.Shinjiro Nozaki

	9:20 – 10:10	Reaching the Unreached	DDC: Dr. SANIKULLAH, Kazim Hizbullah
	10:10 – 10:20	Break	
	10:20 – 11:10	Health Security	WHE/DSE: Ms Kathleen WARREN
	11:10 – 12:00	Climate Change / Planetary Health	DHP/HAE: Dr. Pankyu Park
	12:00 – 12:05	Closing	PTC/CSU: Dr. Midori Akimoto
		LUNCH BREAK	
Day 4: Nov. 23, 2023, Thursday			
	Whole day	Visit Provincial and Municipal Health Offices: Manganate Community (Cavite)	Dr. Sharon Yvette Angelina Villanueva Prof. Azita Racquel Lacuna
Day 5: Nov. 24, 2023, Friday			
RITM	AM	Visit to Research Institute for Tropical Medicine	Dr. Evalyn A. Roxas Dr. Sharon Yvette Angelina M. Villanueva
		LUNCH BREAK	
CPH Library Mezzanine	PM	Closing Ceremonies Awarding of Certificates	DMM Faculty and REPS

Course Coordinator:
Dr. Maria Margarita M. Lota / Dr. Sharon Yvette Angelina M. Villanueva

Research Associate in charge:
Ms. Micaella C. Dato

DMM Faculty:
Prof. Marohren C. Tobias-Altura
Dr. Fresthel Monica M. Climacosa
Prof. Azita Racquel Lacuna
Prof. Geraldine B. Dayrit
Dr. Evalyn A. Roxas
Dr. Sheriah Laine De Paz-SIlava

Research Staff
Ms. Loisse Mikaela Loterio

添付資料 7

専門課程Ⅲ　地域保健臨床研修専攻科　報告会・発表会

日時：令和 5 年 11 月 29 日(水)　10：00～16：20

1．フィリピン研修報告会　（発表 8 分　質問 5 分）

10:00　1）フィリピンの感染症対策
10:15　2）フィリピンの保健医療人材
10:30　3）WPRO における高齢化の現状と対策
10:45　4）WPRO における reaching the unreached

2．個人課題成果発表会　（発表 10 分　質疑応答 10 分）　※タイトル変更の可能性あり

11:10　1）Zero-dose children の現状，課題，取り組み-国内認知度向上に向けた提案

11:30　2）Vaccine Hesitancy の歴史と現状、小児科医としての今後の取り組み
11:50　3）昨今の医薬品の供給不安について―背景と対策および臨床医に求められる対応―

12:10　休憩

13:10　4）産業保健の視点からみた医師の働き方改革
13:30　5）孤独な高齢者～社会ができること～
13:50　6）外国人労働者の保健医療
14:10　7）糖尿病未治療・治療中断患者の現状、アプローチ

14:30　休憩

14:40　8）日本の医療費削減の方法を探る
15:10　9）無痛分娩　国内普及と低中所得国への応用
15:30　10）一億総健康社会　～マイナンバー保険証×母子手帳～

15:50　講評

16:20　終了

添付資料 8

修了時アンケート

公衆衛生分野における医師の役割は、どのようなものだと感じましたか。（様々な職種が関わる中で「医師」のバックグランドを持つ者の役割とは、何でしょうか？）

- 多くの先生がおっしゃっていたように、自身の経験から現場をイメージして政策立案を行うこと、また立場を生かして現場の医師と対等にコミュニケーションをとり現場の声を拾い上げることが役割だと考えます。
- 公衆衛生は本コースを受講する前に考えていたものよりもずっと幅広い分野でした。必ずしも医療に関わる分野のみを指す言葉ではなく、水や環境、危機管理、データサイエンスなどなど様々な専門分野が相互的に作用しあって国や地域の人々が健康で安全に暮らせるシステムを作り上げていく分野だと感じました。コースを受ける前は、医師は「多職種をまとめるリーダー」といった印象が強かったのですが、現在は、医師も公衆衛生に関わる一職種であるという感覚が強くなりました。その中で、医療に関わる内容に関して、臨床の現場での実情を知っているというスキルを活かして、政策と現場の乖離を防ぐ役割であったり、医療従事者間でのチームワークの架け橋となるような立ち位置を担っていくのが重要な役割だと感じました。
- 医師免許がないとできないことはほとんどないですが、医師としての臨床の経験や知識は、データの理解や現場の調整において不可欠なものだと感じました。
- やはり臨床経験・現場経験での問題意識が重要な役割を果たしていると感じた。特に個人のモチベーションや、相手への説得力の点で、臨床経験が重要に感じた。
- 臨床の現場をこれから数年は継続する予定ですが、臨床の現場で実際に直面した問題に対して何か社会の構造を変えようと思った時、その経験は大いに生きるとおもいます。
- 法律や経済の専門家ではありませんが、疾病理解や医療現場の状況を知っていることは政策決定の上で重要であり、その知識を活かしていく使命があると考えます。
- やはり現場を知っているということが大きいと感じた。また、もともと医師のバックグラウンドがあることによるほかの医師とのつながりで新たな問題の発掘ができるのかなと感じた。
- 行政の立場で働く場合：現場の医療機関で働く医師と共通言語を持っており、コミュニケーションを円滑に進めやすい。信頼を得やすい。「現場の常識」的なものを感覚として持っており、事務などの職員では理解しにくい点に気づきやすい。現場で現実的な対策を考えやすい。政策作りの際に臨床経験が役に立つ場合もある。保健所長など地方行政の場合、必要であれば臨床的な判断をすることもある。

研究者の場合：大学教育の時点である程度の科学的知識、データの扱い方等について学んでいる。立場によっては他の職種より臨床研究がしやすい。教員など教育者の場合：医学生や若手医師がキャリアの中でどのような点に苦労するか理解している。自身の経験を踏まえて話ができる。人道支援などに関わる場合：医師として直接現場に必要な医療を届けられる。

- 臨床現場の経験がありリアルな問題意識を持てること、臨床現場で働く医療者とのつながり（人脈）があること。
- 本質的には誰がやるかであって、職業に縛られるところは少ないとは感じましたが、医師として患者を診療している臨床のバックグラウンドがあることは、公衆衛生に携わる中では必ず生きてくると改めて実感しました。また、問題抽出力、課題解決力が役割としては最も求められると考えます。
- 医学の知識的背景や自分含めて周りに豊富な臨床経験があり、現場の声を誰よりもキャッチし、それを政策・行政に反映させることだと思います。地域診断という言葉があるように、「社会のお医者さん」という言葉は非常にしっくりきました。特定の範囲の社会に対して、問診・身体診察（現状分析としてのアンケートやsurveillance など）を行い、鑑別疾患を挙げ（問題点の特定）、アセスメントを行い（必要な解決策の策定）、治療していく（政策・行政の実行）ことは、臨床医に求められる能力と遜色ないと感じました。また、その上で病院の中以上の多職種連携が求められる中で、社会に対するチーム医療におけるリーダー、調整役としての役割が求められていると感じました。

研修を受ける前と受けた後で自分の中で変わったことはありますか。（今後のキャリアパスについて、公衆衛生の見方、医療政策の捉え方、など）

- 公衆衛生のキャリアについて具体的なイメージがついたのが最も大きな変化だと思います。研修参加前は形成外科で専門医取得後の進路が不透明でしたが、専門医取得後にまずは海外でMPHを取得し、行政に進むか元々目標としていた国際NGOでの医療支援に携わるかを改めて決めようと思いました。
- 厚生労働省についてブラックなイメージが強いのと自分には合わないと思い敬遠していましたが、実際に研修をしてみて確かに働き方はブラックですがその分やりがいも感じ、視野と人脈が広がる場だと思ったため、数年間働いてみることに興味が湧きました。
- 公衆衛生の捉え方も大きく変わりましたし、将来のキャリパスに関しても今までよりもクリアに自分の中に選択肢が見えてきました。公衆衛生はいわゆる貧困地域での医療活動や支援といったことがメインであるという印象が強かったのですが、それはあくまで公衆衛生の一側面に過ぎないということを学びました。国や地域を超えて、人々が安全で衛生的な生活を送るためのシステム作りを行なっていく

のが公衆衛生であり、それに関わる全ての分野の専門家が協働していく学問だということを感じました。将来のキャリアパスに関しては、今回のカリキュラムの中で様々な先生方からのお話を聞くことができ、逆に自分の中での選択肢が増えました。まずは今後 5 年のキャリアパスをどう有効に計画していくかが今後の重要なステップだと思っています。

- 元々、国際医療に軸足をおいて活動を行っていましたが、もっと身近な国内に対応すべき問題はたくさんあること、またそれを解決するために様々な武器があることを痛感しました。またキャリアパスは様々ということを頭では分かっていましたが、実際に様々な挑戦をされて公衆衛生に臨まれる先生方を前にすると、その事実をより鮮明に自覚することができました。自分がしたいこと、そのために必要なことをその都度考えてキャリアを重ねたいです。
- 公衆衛生に進むのが異端者のように感じていたが、むしろ公衆衛生こそ医師の進むべき道であるように感じるようになった。
- 何となく mph を取りたい、小児科臨床だけでなく医療的ケア児の支援やワクチンのカバレッジを高めるなどの公衆衛生活動をしたいと思っていたのですが、実際に公衆衛生のキャリアに転向された先生方のお話を聞いて、非常に具体的な目標として私の中で固まってきました。
- 順当にいけば医局員で臨床をしていくというとても普通なキャリアを歩んでいくというつもりである自分にとっては公衆衛生に進もうと決めている人々は自分でキャリアパスを構築していかなければいけないこともあり、みなキャリアについて色々なことを考えていること自体が刺激になった。自分も臨床医としてもキャリアを主体的に構築していくという必要があるという認識になった。　臨床の中で簡単に気づくような問題はもちろん公衆衛生をやっている人々にとっても問題だと認識されているが、政治的な要因であったりステークホルダーの思惑により進まないのだと感じた。
- 今後のキャリアパスについて、受講前はあまり考えていなかったが、公衆衛生大学院でより深く公衆衛生を学びたいと思うようになった。また、厚労省のインターンを経て地域医療についてより関心が深まった。災害対応などについても今回の研修を通して初めて学び、興味を持った。グローバルヘルスにも関心はあるが、まずは国内や自分の身近な地域についてより深く考えたいと思った。
- 研修を受ける中で、質問力や自分で考える力、発信力、英語力、コミュニケーション力などに課題を感じるようになった。
- 医師の働き方改革や医師の偏在対策など特に自分が臨床医として働く中でも関わってくる政策については与えられた条件をただ鵜呑みにするのではなく、自分自身の意見・考えを持ち、よりよい方法にするにはどうすればいいか考える習慣をつけたいと思った。
- 日本国内の医療問題や、医療体制についてよりリアルに捉えることができるようになりました。

- 研修を受ける前は公衆衛生についてなんとなく興味を持っている程度でしたが、キャリアとして公衆衛生への関わり方が自分の中ではっきりしました。（後期研修→MPH 取得→evidence-based policy making or 臨床疫学？）自分の興味がある分野、今後学んでいくべき分野が理解できたのはとてもいいことだと思います。
- 医療政策については、厚労省の資料がまず読めるようになったことと、様々な制度などが決まっていく過程で細部でどのようなことが起きているかより明確にわかるようになりました。
- もともと自分が関心が薄かった分野（国際保健、母子保健、水など）にも課題意識、興味が芽生え、これからも情報はキャッチアップしていこうと思いました。
- これまで法律や規制について深く知識を得たり考えたりする機会がなかなかなかったので、社会に対する見方が一つ身に付いたように感じました。また、行政・公衆衛生医師には確かなやりがいが存在しているので、「ライフワーク」として自分のキャリアパスに組み込むことも考慮してもよさそうだなと前向きな気持ちになりました。

研修終了後の抱負を教えてください

- 吉村先生からのメッセージ、「解説よりも「解決」を「行動」する医師へ」という言葉が最も印象に残っています。本研修が始まる前から課題意識を持っていたこと、また 2 ヶ月間の研修を通じて新たに課題感を感じたことが多くありますが、考えるだけで終わるか、行動に移せるかが今後の人生を大きく左右していくと思います。小さなことでも、臨床の現場にいる時でも、「気づいたら自分が変える」という意識を持ち、行動に移せるようでありたいです。
- 他の研修生と過ごした中で、「質問力」「プレゼン力」「英語力」の 3 つに課題意識を感じました。これらのスキルはどれも必要かつ努力で向上できるものだと思うので、磨きをかけたいと思います。
- 今回の科学院での研修を活かし、まずは自分のキャリアについてしっかりと考えていきたいと思います。臨床に残って、その後将来的に行政に進んで行くのか、それとも行政ベースでこれまで医師として現場で見てきたことを活かしていくのか、どちらが自分のやりたいことに近づけるのかを日々意識しながら残りの初期研修を行なっていき、有意義な後期研修以降のキャリアに繋げていきたいです。
- この研修を通して、医師である自分たちが行政に関わる意味ということを深く考えさせられたので、将来は現場ベースな視点を取り入れた行政医師を目指して、日本国内のシステム作りや、それを世界にも広めていきたいと思っています。また、国際機関で働くチャンスを自分のキャリアの中で作っていきたいと思っています。経済学と医学のバックグラウンドを活かし、国際的に公衆衛生で活躍していける人間になりたいと思っています。
- 先生方の講義を通じて、まずは臨床医としての目線をもう少し養ってから公衆衛

生の道に関わりたいと強く思うようになりました。まずは、内科医として内科専門医取得し、その後海外 MPH や公衆衛生大学院への進学を目指します。その後は、地域における健康格差問題に取り組みつつ、日本から世界に発信・貢献できる方法を模索します。

- 「解説ではなく解決」というスローガンのとおり、実践を重視すること。現場を大事にすること。キャリア形成の観点からは、なるべく色々な人脈と keep in touch すること。
- 臨床の分野に執着せず、海外での mph の取得、行政における貢献、スタートアップなど多様な選択肢を常に視野に入れてキャリアを形成していきたいです。
- よく臨床は下流で公衆衛生は上流だから上流をやりたくて公衆衛生をやっているという先生がいらしたが、逆に下流で上流のシステムに戻すことを強く意識して臨床をやっていこうと思った。（たとえば疾患の裏に隠れている社会的なプロブレムまで意識して社会福祉サービスにつなげるなど）
- 来年度から数年間は臨床に進む予定ですが、その後は MPH の取得や公衆衛生分野で働きたいと考えています。臨床に従事している間、まずは臨床医として必要な技術、臨床能力を磨きつつ、現場の課題を自分なりに探していくとともに、目の前の患者さん一人一人と向き合うことが公衆衛生学的にどのような意味を持つのかということを考えながら学んでいきたいです。現時点では自分の最終的なゴールはまだ見えていないのですが、今後も色々な経験を積みながらチャンスが来た時にそれをつかめるような準備をしていこうと思います。
- グローバルヘルスに貢献できる人材になりたいです。そのためには、国内の医療行政の経験、FETP（国籍や言語で参加できるプログラムは限られる）も検討し、また途上国で数年働く経験の重要性も認識したので検討したいと思います。
- より多くの人の健康をエビデンスという面から支える人材になろうと思います。
- 無事に小児科専攻医に就職が決まったので、専攻医として臨床経験を積みつつ、研究をしていきたいです。ナショナルセンターの強みを活かして、どこかで人事交流で厚労省に行くのも楽しそうだなと考えています。

－以上－